

第2回市立病院の今後の方針検討会 議事録

1. 日 時 平成31年2月25日（月）19時～20時

2. 場 所 金沢市役所7階 第1委員会室

3. 出席者（敬称略）

委員：金子座長（金沢大学）、羽柴委員（金沢市医師会会長）、吉野委員（石川県看護協会会長）、平嶋委員（金沢市社会福祉協議会会長）、木下委員（金沢市地域包括支援センター連絡会副会長）、西野委員（金沢市町会連合会会长）、本谷委員（金沢市校下婦人会連絡協議会副会長）、細田委員（金沢市副市長）

事務局：金沢市保健局長、金沢市健康政策課長、金沢市立病院事務局長、金沢市立病院事務局次長ほか

オブザーバー：金沢市立病院院长

4. 主な質疑応答

①石川中央医療圏における人口動態などについて

I 委員	市立病院では眼科の患者が多いが、どのような疾病が多いのか。
市立病院事務局次長	白内障の手術が多くなってきている。
C 委員	資料を見ると市立病院はどの診療科も住所地もバランスよく患者が来ており、そういう意味では安心して受診できると感じた。 これから高齢化が進む中で、高齢者は複数の疾病を併発するので、総合的に診てもらえる診療科があればよい。
E 委員	資料6に「外傷」とあるが整形のことか。北陸病院は結構多いが。
市立病院事務局次長	整形の主なところは「筋骨格」の分類に該当する。
市立病院院长	この区分は病院の判断によるものである。
保健局長	北陸病院には、膝や腰の専門のスポーツドクターがいると記憶している。
E 委員	その辺が「外傷」に入っているということで理解した。
B 委員	バランスよく患者がいれば良いのか、地域の特色に沿った構成が良いのかは難しいところがある。 資料8を見ると患者の地域偏在性が少なく安心したが、資料4を見ると南部には病院が少ない。この地域の患者はどこへ行っているのかと感じた。

②公的病院に求められる役割と今後の課題について

G委員	前回の説明では、市立病院の経営改善が必要だという話であった。資料10の今の説明では、財政状況は問題ないということで矛盾する説明である。きちつとした説明をお願いしたい。
市立病院事務局次長	前回の説明では、単年度赤字と累積欠損があるという説明を行った。今回は累積欠損はあるが、現金は十分あることを説明したものである。
G委員	それは公的なお金が入っているからであって、そこはしっかり説明しなければいけない。独立行政法人化などの議論でも誤解した方向に進む可能性がある。
市立病院事務局長	財政状況については、平成28年度から30年度まで単年度収支では赤字になる見込みであり、決して良い状況ではない。しかし、貸借対照表上では流動資産である「現金・預金」が十分あり、直ちに経営が深刻な状況に陥ることはないということを説明したものである。 ただし、赤字が続いていることは問題であり、単年度収支が黒字になるよう、収入では入院患者を増やし、歳出ではコストを削減するための一層の取り組みが必要であると考えている。
I委員	求められる機能について、「母子支援センターの設置」とあるが、市立病院は周産期でのお産は少ないのでないのではないか。こうした中で、周産期の出産が少ないところにセンターをつくって人を集めるのは厳しいのではないかと思うが、具体的な方向性があれば教えてほしい。 また、健康増進講座は大事な取り組みであると思うが、一方でテレビで健康番組を行っていない日はない。視覚で訴えるテレビ番組と市立病院で行う講座の棲み分けをどう考えているのか。
市立病院院長	ここでいう「母子支援センター」では、周産期医療は想定していない。出産前と出産後の母子保健の支援を考えている。この事業は既に保健所と連携して本院でも行っており、金大の産婦人科の先生などにも協力をいただいて実施している。おっぱいがでないお母さんも多くいるので、そういう方を集めて教室を開くなどして支援している。 また、健康増進講座は、「まちなかサロン」として今年から商業施設で行っているもので、毎回40人程度が参加している。住民と直接対話しながら実施することが重要であり、今後は市内にも広げていきたい。
H委員	住宅が多い南部地域に位置しているが、周囲には大きな病院がなく、患者も多く来ていると受け取った。しかし、単年度赤字ということであり、支出を減らす方向へもって行かなければいけないと思う。事業を広げると人材も必要になるが、支出を減らす努力が必要ではないか。

市立病院事務局長	<p>赤字の一番の原因是人件費であり、職員の身分は公務員なので、人院勧告の実施によって給与が引き上げられると、人件費比率の上昇に直結する。そうしたことから、今後は人勧実施の影響を受けない「独立行政法人化」など、「運営形態の見直し」なども検討して行かなければならないと思っている。</p> <p>また、建て替えとなるとその後40年から50年と使用していくことになるので、将来、確実に人口が減っていく中でこれまでどおりの規模が必要なのかなど、先を見据えて市立病院を長く維持していくためにはどうあるべきかという長期的な視点からもご議論いただきたいと考えている。</p>
H委員	<p>いろいろな病院があるが、市立病院は柔らかい雰囲気で入りやすい。そういった安心感のあるところは大事にしてほしい。</p>
市立病院事務局長	<p>職員は丁寧な応対を心がけているので、これからも続けていきたい。</p>
E委員	<p>役割と機能ということで①から⑨まであるが、300床の病院でこれだけ行うのは大変ではないか。私の立場からいと、救急と災害拠点病院、政策医療、在宅医療は外せないと思っている。</p>
市立病院院長	<p>市民に開かれた病院というコンセプトはよいが、金沢市の現状を考え、市立病院の立地条件を踏まえると、市内全ての地域から患者が来てくれるような病院を目指すのは難しいのではないか。</p>
座長	<p>今後も現在の場所で行うのであれば機能を特化させた方がよいと思う。駅西に急病センターができ、うまく機能している。南部から少し離れているので南部にも救急の拠点があつてもよいのではないか。</p>
市立病院院長	<p>なお、災害発生時には災害拠点病院となる。そうなると全て行うのは欲張りすぎという気がする。</p>
座長	<p>⑤にあるように特長ある診療部門を強化するということで診療部門を先鋭化しようとしている。</p>
市立病院院長	<p>再整備に向けた課題は多くある。どれも大きな課題であるが、これをやっていかなければ市民のための病院にするのは難しいと思っている。</p>
座長	<p>今回の議論の中で、市立病院は公的機能を果たしており、今後も求められていることは明らかである。市民にとって必要なものが今あるので、それを継続していくためには、再整備も視野に考えなければならないということで議論をまとめたい。</p>
市立病院院長	<p>来年度は、3回程度開催し、再整備に向けた方向性を検討していく。</p>